Osaka University Knowledge Archive

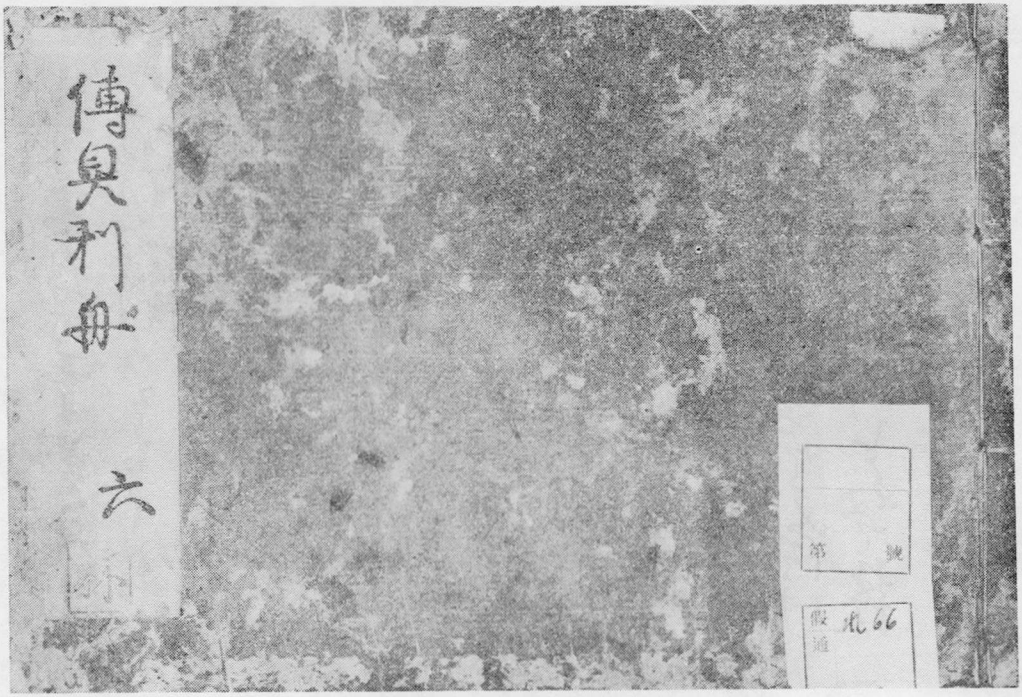
Title	影印『手繰舟』巻六
Author(s)	
Citation	語文. 1980, 37, p. 23-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68667
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

手繰舟　六



男山は御静謐にして民の草
葉も豊に松山さゝんさゝとして
ちとせの舞鶴羽うちつれとひかひ
てたちよかけ出六岩ちかの河辺
鍬立とのくしてうゝくたとや
千世万代とたのしみ給けり
あかって寛文六年秋七月
十日の夜西風吹すさひて
み山の汐さいに御くやれやうに
寄せて堀の浦我乃くるゝり
新塩はしゝ出来きりえやくあり
とおもふに内にしとのや文月

年まれ月出来よ男山ひれ所
うかゝひありけることもしえ人
時君とはいふ文五郎と名付て
千兼にそへひ兼葉乃よふに
林所言もかゝしくてしかる
可は此代乃あか瑞ならて衆
済の八大船ある十と八十かれ
八所の人あつまり集まりて首ち
此木より石像の出来西
寄て文よ板橋とほし神会
と建て我鳴又忠作る名付
新造の人家新とある奴て故歎

道遥乃地とはされ地川乃
あことなるなるハ今ハ桜の
下の潮りなれ手ゝ乃
和ことをあらく黄ゝ此彩陽
乃ほとまの事て造兵部先
なし次ハをのこの傍南北
流れて四国乃山多年にかさ
ゆり後ハ伊駒乃岩葛城の
峯雲のようにひく南ハ
紀路乃金山和多のうし浪
と立ちしなり小野信吉
雅波乃浦と言ひて武庫の

奥なる山も雲乃中にあ
へしは家によて此境ちなり
なとの人をさしまもいふ是を
ゆ香りして朝夕あ間まり
まれる人事のことにして
此浦乃盤栄今これ有りと
みたるわ志れハそれくれ
ものの或ハ詩哥と作り或
ハ連俳りしまて此詩とおと
ふく半すくに妙事せり
志るあ是と此まゝ浦の藻屑
とともにそし侍人も只おし

くて今かき集まるまくを
舟れ行ねくにゝ行くぬ荒勺
ともかくこゝしかゝるす
よなりにゝるを

維時寛文十一年
辛亥之朱律
阿知子顕成

手譜舟巻第六

残鶴
発句会

春

芦原の鶴乃ゑ出しや鶴の戎 博 去拾
はきぬ名や鶴の手家の戎 同 一守
ふまもゝ又浦乃初鶴や鶴の戎 同 宗満
ゆふや鶴はゝ下ふ海の戎 入坂 友伝
石ゆゑ見て出影と拝めの戎 博 吉次
新鶴乃守護にいくかや鶴の戎 同 善正
象図をめてゝい宮や鶴の戎 同 浮長
出来鶴や実石ひろかゝの戎 同 正重
鯛やゆゑ作る恵鶴乃鶴の戎 同 貞房

鶴の景や紀鶴の年山の戎 平賀 宗静
新みして又新鶴の鶴の戎 博 宗貞
新鶴やをのれ作る名も鶴の戎 同 利貞
新鶴や神もはらまきの戎 河長 栄貞
新しき鶴乃石ゆゑ鶴の戎 布丑 一志
なんぼ鶴る石や新鶴の鶴の戎 博 去諦
博浦や是も今又鶴の戎 同 久成
出来の舟や作る鶴乃鶴の戎 泉長 全休
掛鯛やしかハ博の鶴の戎 博 伝家
うゝ花なき巌や鶴の鶴の戎 同 園湖
鶴乃ゑ鶴ゑもとしわの戎 同 白吟
此鶴ハ久しき恵とうの戎 同

呂も鶴乃忠にうつる若戎 堺 永重
若戎鶴や堺ゆる西の文 同 宗賢
乗鶴やこくわふ忠に次の万葉 河内 重昌
蓬莱にかりていとへ忠に鶴 大坂 林見
鶴の名乃戎打ぬや雲雲 堺 顕成
鶴の名の戎家にも試筆 同 宗満
新春の古事や十月戎鶴 同 光壱
かり船や鶴正月戎言 同 好重
彼の鼓くや鶴の忠に寄 同 可慶
文立つ乗といりふの鶴の春 同 正羽
石の戎忠かりや鶴の春 同 正重
鶴の春とはふえんよね乃石戎 同 貞伸

船幕と春の氣色や戎鶴 堺西 治之
お面なりも打家彼や戎鶴 同菊 治之
戎鶴や堺はうつる浦の春 同 如幻
尾とりや乗鶴かくに夕霧 同 方寸
乗鶴の霧乃絹や堺織 同 光壱
茶代乃春月や乗ふ鶴の廻り 同 長正
亀鶴や夜の春の月新小 同 利貞
乗鶴に心やうき木花の彼 泉州 武宗
戎鶴を蜜も嘴るるの代 堺 如水子
戎鶴や古事の文を楊鯛 住吉 宗俊
戎鶴や海路乃なこ木楊鯛 堺 琴羽
楊鯛もてあるしや戎鶴 大坂 雲賢

橘朝臣の為忠し　残花　同　宗房

物乃為もやはり　残花　大夜　一六

きえぬ涙に袖の露　残花　寄春

夏

ぬきかへらしつ　残花　春屋　残花　慣　長治

残花や　宗と　紅中　郭　五　同　宗満

春雨や　泉の万葉　神茶　同　立柳

月雨の　水かえ　宝　同　野城

残花の　春も　甲　宗　春　同　之之

残花や　しへ　もつ　生　人　太　同　利夏

玉ぬけ　かけ　時　残花　同　宗夏

春の　残花　春屋　残花　慣　長治

春雨や　泉の　万葉　神茶　同　立柳

月雨の　水かえ　宝　同　野城

残花の　春も　甲　宗　春　同　之之

残花や　しへ　もつ　生　人　太　同　利夏

玉ぬけ　かけ　時　残花　同　宗夏

秋

西の空と　秋なれて　残花　大夜　一六

見うしなはんや春の行方　懐紙　大阪　仙化

ほのぼのと春の曙　同　助信

雪ふりし春の曙　同　義

雪ふりし春の曙　川大阪　儀

春の行方　同　義

三日月やはれ初行く春の空　懐　大阪　僕

春の舟や面てむかふて残る　同　義

行く春や大和の山の月の舟　同　宣

水の面にて月の残る　同　立秀

月やはるばる行く春の空　同　経光

春の月を万年経て　懐　大阪　松宗

春の月やかすかに残る　懐　一守

行く月やかすかにとまる残雪　同

星や春の入日の名残　懐　天保　宗和

霞ふる月や人の残る　懐　雖

出る春の月人の残るこ　同　宣也

此の春の名残をしき月の糸　懐　泉　金林

春の今は南ちらし残る　懐　泉　房

春の暮小雨動き行く　懐　大阪　一六

初夕べけふ過ぎし残雪　懐　宗安

春の暮初夕べ　懐　大阪　西次

行く春井堰の水の残る　懐　経光

春の秋もしほ地ちらす春の暮　同　宗隔

冬々

君の代乃久しき年をへしかり
りなるけふも石清水と云所
まことを世をめくみもて法楽乃為
めのまも俳諧乃発句をあつめ
数しれはりていろく羽球すて
判しらるゝまのまゐ例し拝多
員別のまうてをめつらしけなし
あさみえ発句をとりて勝まけ
乃ゐを定むへきよしいらく
短冊も叶さる事侍らしひく
固辞佐れいへとも許されれし
ゑらく一流にひろ乃下まで右一句を

かけ弟侍るも且ハ奉納とけり
し且ハ人の物いひさかなき
世をいさゝかなくさめむとてなつく
てもりもてまつれりのなかし

寛文九年三月中旬　松山玖也

作者

左

狐塚風忘
淺見川紫菊
二沼風芦
花園雪駅
菊田紫渕

右

松罡風鈴軒
鳴川紫簫
江綱風鴻
中寺風蕉
小川柳橋

百番俳諧發句合

一番　元日

左　勝　狐塚風忘

[illegible]

右　松罡風鈴軒

[illegible]

二番　初芝居

左　勝　淺見川紫菊

[illegible]

右　鳴川紫簫

[illegible]

初芝ゐるれもこころやよせ右報

三番　水掛祝

左　持　二沼風芦

絲しとや沖中河乃水いそひ

右　江綱風鴎

とし城乃神代もうくや水河こせ

友達やこまりうく我水祝ひ

四番　若菜

左　花園雪駒

摘まとや先ん法うりくうくひすか

右　縁　中寺風蕉

摘んやをむまれたかとのうくひすな

右乃ほまに先もてはやを常菜

五番　吉聖餅配

左　持　菊田雲園

ちしれ山きしせぬ雪う餅くはり

右　小川柳橋

美聖山むまれたころや餅くりり

とりくやいりまもよれ餅配

六番　薪能

左　持　狐塚風窓

神す能や薪にむとおり乃内

右　松罠風鈴彩

春日聖や袖もりえくく神す能

まひと見やた右ひとりに薪能

七番　猫妻恋

左　勝　洲尺河窓菊

妻こひのうたしなかなか猫の縁

右　呼河窓蕭

妻戸とし仏ふ悔する男猫に

心ひくうたや妻こふ猫乃ほか

八番　春駒

左　持　二沼風芦

是も妻ひとほ芦をうまれ駒

右　江網風鶴

妻駒や先へうけていきまた花一枝

妻駒ハいほ是もとゝぬ名句に

九番　海苔

左　花園雪驢

桜はかよ是はいほもいろ此演

右　勝　中ち風蕉

うまえまや是もきれの文珠苔

桜はかよちくまさるん文珠苔

十番　防風

左　勝　菊田窓剛

白演より赤いろなる防風に

右　小川柳橋

りやして真砂地ゝ次防風に

白濱に出くへハ無ゝ防風ゝ

十一番　種蒔

左　狐懐風宗

田の出や古ゝ我欲を種おろし

右　勝　松畳風軒

宮城野や都乃浴後ゝ萩乃

交城野ゝ萩ゝ人乃おもひ

十二番　麻蒔

左　湖人雲菊

一まきのまくやまきの花ゝ麻

右　勝　鳴河雲蕭

まく人や心とゝまゝ麻ハしけ

蒔人乃名そなつかしき榊麻

十三番　栢杞

左　二沼風芦

みとりなるひとり二葉やくこ此ゝ

右　勝　江綱風蟾

摘入るくこ酒乃又や爭ゝ此壺

二葉ゝりいまハ不ゝ後乃くこ茶ゝ

十四番　田芋

左　花園雪驢

り濃に数ほかりとるハくこ如ゝ

右　勝　中古風蕉

おひちゝやおりし田子ゝ此ほる烏芋

誰も皆こひちと吹田鳥芋

十五番　柳鮠

左　拾　菊田雲閑

釣糸や波もてむ浦ふ柳さへ

右　小川柳橋

釣竿やふ川そふる柳さへ

合すれ分ふ浦のもはし柳鮠

十六番　鳥巣

左　狐塚風宝

鳥の玉子あり遠親なき巣なり

右　勝　松岡風鈴彩

風もうぬ世とし御本ぬけ巣

とのう尾手先も点とうけ

十七番　碾磯念佛

左　淺人河雲菊

鐘乃音やあらしとふる御ふ念佛

右　勝　鳴河柴簫

わ浦遠すらむとかこえ乃御ふ念佛

志れ寄ら右に志りくと碾磯念佛

十八番　壬生念佛

左　勝　二宮風芦

六乃鳴とく乳遠てうふ此念佛

右　江洞風鴎

咲むれ御りと告こせ又不念佛

六乃陽やと乱進て作意に念仏

十九番　花

左　勝　花園雪駒

ちりうきはむもいくへ乃らし紙

右　中ち風蕉

月と花かゝ清かなるゝぬ人物ゝ乱

かきはてゝ手原しむなし雅紙

廿番　桜

左　菊田宗剛

写ほ玉もはくらに深し板来ゝ

右　勝　小川柳橋

是ゝ玉ゝ都の実うへ江戸桜

一句に何り花も実うへ乃江戸桜

廿一番　桜鋼

左　狐塚風宗

かて帯やむなか里もさくら鋼

右　勝　松畳風軒

桜なるゝお前の鋼やらし雅山

お前ゝ天下一枚乃さくら鋼

廿二番　鳥賊幟

左　持　浅川河宗菊

下なるゝ天津ゝやいらのほり

右　鳴河宗蕭

深雪や雲にいろ清くいれなり

をれぬや罠二天にいられなり

廿三番　梨花

左　勝　二沼風芦

月かけや霜なりしてなしの花

右　江綱風鵄

四ていくいかりなり黄なしの花

金言や霜なりなき梨乃花

廿四番　蘋枋花

左　花園雪駒

秋雁や枝なりしこまくむすこう

右　勝　中島風蕉

えひうめにはやや蘋枋乃むれいろ

えひ深やまも一入乃むすこう

廿五番　鄉渇

左　持　菊田雲閣

火後しかも毎にわて赤ばし

右　小川柳橋

もしかや毒乃結まも毒しし

燒てくへひとつなりひら赤ばし

廿六番　角夏

左　持　狐塚風窓

夏きてやもしかきぬとうへ

右　松岡風軒

おけるへらまさふしれもまさもし

上ましく下めにけかまもしられ

廿七番　苟藥

左　勝　浴見河堂菊

すてしかれ此代乃きわや將軍を

右　唱河堂蕭

をひしけけるや薫薩の身ちを

誰か此下にかくれぬ將軍花

廿八番　郭公

左　持　二沼風芦

里とり出ハ舌とにまなけ郭公

右　江網風鴎

村雨やなかんあひ此のなとふた

あり所にや毒此耳かき郭公

廿九番　諫鼓鳥

左　勝　花園雪鄙

祢乃きさうへ乃おちるかんこ鳥

右　中寺風蕉

さひしたや心にのまるかなこゑ

春のはちつくてん点句かんゑ

卅番　蚊食鳥

左　持　菊田堂剛

ひ[illegible]らにまるを鳴なりかくひまり

右　小川柳楮

蝙りりはやならへく蚊くひる

無量とみまし飢ゑの蚊喰ゑ

卅一番　蛭

左　勝　瓶堀風呂

吸つきハ足をさすして田蛭ゑ

右　松呂風於彩

無殘すへハ蛭も井もの此ゑしに

吸勝てきふし無代ひるこそ

卅二番　沖膾

左　持　淺見川紫菊

何魚ゑつくまはまふ沖なる欲

右　鳴の紫蕭

不料理やひもなきの沖膾

句作りやいつまもおきに沖膾

卅三番　日光案

左　持　二沼風芦

明らけ今世や日光乃神ゑ

右　江綱風蹄

上もなし日光山ゑ神ゑ

左右此事を合せて日光案に

卅四番　松前後

左　持　花園雪駒

松前やまるゑこゑ此奥ゑ海

右　中島風真

けやゑ此ゑ松前へ夏日より

松まつや菊しまつかと夷の鴻

卅五番　端午

左　菊田紫園

八棟やはらふかぎりの軒乃書

右　勝　小河柳橋

竜の絵も謹すくなし無れなり

八棟のうへにうちつけ紙のなり

卅六番　早苗

左　勝　狐堀風宗

うゑる田に稲葉の秋やくこひ雨

右　松岡風鶴

早苗とるまにうゑ秋と一にきり

うゑる田に雉も心やくこひ雨

卅七番　萸酒

左　浅刀河紫菊

火を入るもの心にり萸酒に

右　勝　鳴河紫蕭

いかしへ乃なしなしひに萸酒に

なりに又似るものもなし萸酒に

卅八番　花柚

左　二沼風芦

酒の香に枝より出ぬむ柚れ

右　勝　江綱風鶴

いまでも花柚咲にやふしん小鴻酒

むかしは見えまゝてゝる小鳴酒

四十九番　紫雅双樹

左　持　花園書駅

はくむハ鶴乃ゑやしう紫雅双樹

右　本多風雅

むれ蒼くすの袋う紫雅双樹

まさりとまりつきハ志ら也紫雅双樹

四十番　風車屯

左　勝　菊田岩洲

むれ猫や羽圓扇なりに風車

右　小川柳橋

氣ゆや咽よりさける風車

羽うちを雉も行くや風車

四十一番　下野花

左　勝　狐塚風雲

志もはむれにもうの我結塚式

右　松岡風雲彩

下聲むれいけて床乃まうへ乳

下聲の花をかゝはきゆゑ式

四十二番　百合車

左　持　浦辺河岸菊

むゝ乃雲ハさせる油の車　ゆ里

右　鳴川笠蕭

花の雲ハてゝしまる雲の車　百合

何とそひやせしもとき花も車ゆる

四十三歳　瓜

左　勝　二作風声

ひやして中泉も月よ其葉瓜

右　江網風鴎

むやしをけ瓜乃まゆまん客乃為

味へハこころよ耳しまくハ瓜

四十四歳　白玉

左　抄　花園雷驢

玉なしハ玉ゑつゝまやゆへひ玉

右　牛ち風蕉

衣裳ゆやまをてこんなしぬ白ひ玉

夜神よ巫風おもし白ひ玉

四十五歳　菫風

左　勝　菊田紫剛

えんするや百歳乃外を南風

右　小川柳橋

石らゝ乱荷紫ゆ浅乃みなし風

蓮風や荷紫といへ百歳

四十六歳　冨士詣

左　抄　狐塚風忌

鳥ゝ花乃ゆらぬと冨士詣

右　松畏風軒

何きゑ又ゝゆへよ冬や石ゑまて

心あひや同行一人留まりて

四十七番　湯石行

左　抜　後見川堂菊

身ぬうへにかくしん垢離う湯石行

右　鳴河堂蕭

心ひとつすましてうとる湯石行

あ無ぬすいとぬや心湯石行

四十八番　凝海藤

左　勝　二江風芦

美してや水草清ぶこころてん

右　江綱風鴎

白皿や水をするとこ行てん

こゝろ浴やせんし探して四右

四十九番　汗

左　抜　花園書駅

水ひかひ汗やなれてみる乃川

右　中寺風蕉

川舟や綱をとりむ乃汗さらく

汗中ぞ影しなれや身を乃河

五十番　納涼

左　菊田堂剛

酒をとつ風にのうむや玄堂蕭

右　勝　小川柳橋

水涼し月をまく光る白茶碗

[illegible]心水にふくすやう反葉流

五十一番　七夕

左　持　狐堀風宮

[illegible]根も[illegible]乃名あり二星

右　松[illegible]風[illegible]

[illegible]の橋かけしまや星乃中

[illegible]の橋やかけ[illegible]

五十二番　玉祭

左　勝　淡[illegible]河[illegible]菊

[illegible]

右　[illegible]河[illegible]菊

[illegible]

五十三番　花火

左　持　二[illegible]風[illegible]

[illegible]袖乃中なるむ火代

右　江[illegible]風[illegible]

[illegible]乃中[illegible]

[illegible]心乃花火代

五十四番　和横

左　勝　花園[illegible]

[illegible]

右　中[illegible]風[illegible]

[illegible]

[illegible]

五十五番　地発案

左　菊田笠剛

まだかりてやこ根乃飛と六地発

右　勝　小川柳橋

祭宮もとまるや買れ地発堂

心とまる買れ地発乃祭ぶ

五十六番　岑入

左　狐塚風宝

岑入やとまりかんにに法螺乃貝

右　勝　松畳風松彩

かけ出やいくへ越まね岑ナんぎ

岑入よいくへ越るかけ出れ

五十七番　名月

左　持　濱見川笠蕭

高坂やのぼりてこれはなれ乃月

右　鳴河笠蕭

名のこりや天のいく次杖乃月

同名や天のくらかし杖の月

五十八番　蜻蛉

左　持　二沼風芦

和かりまるさや浴衣乃山とんが

右　江網風鴻

おのしとふとんおうや事なれ

雪や降る招行し色なる赤さえなり

五十九番　鶴

左　勝　武園雪野

めぐりしき旬に出し点や川うぐら

右　中寺風蕉

花薄なる出て声や川うぐら

川勝て屋も出し点乃うぐらに

六十番　鱈

左　勝　菊田堂剛

京乃人やほしかるものさけ魚

右　小川柳橋

切目しくるもの赤ばまれさけ魚

京の人乃旬めつらまり鱈の魚

六十一番　鏞

左　持　狐塚風定

川よけやなれも何へも鳴かしう

右　松岡風軒

かしらまくまや赤くみなれ川

水乃底まりの色もよかれかしら

六十二番　麻

左　持　浅見川柴菊

山さらにかすかに多くや麻乃苗

右　鳴河柴蕭

かまなるてやまなる蕉風しらの苗

男原もやゝかすみて二管笛

六十三番　風仙花

左　勝　二沼風声

鳥もすゑうのもろあし風仙花

右　江綱風鶴

乃えやさんの時にあらぬ風仙花

何せんに時にあらぬ風仙花

六十四番　薬塩

左　持　花園雪驢

なる楸乃狭気もよきら杜丹の根

右　中ゝる風鳥

ほる時に聖ゝるかにかり桔梗乃根

それ〳〵の能や味りふさすりなり

六十五番　茜塩

左　菊田紫閣

山もなくて西こう秋とほる赤根

右　勝　小川柳橋

山人やこゝろをそゑくなりしなり

右をかりふ心のいろや赤根塩

六十六番　芥子蘭

左　持　狐塚風宗

四乃的九乃月めやけし此程

右　松岡風柳彩

的にすもいろきみくなりけしあり

こまの鳴る心やおなしくらしけるか

六十七番　蒲萄

左　洲見河柴菊

さくらはるゝ事のみ雪や菊乃酒

右　勝　鳴川柴蒲

ちよくにうけくいとも鳴らしかうこ酒

和まりは重衡よりやかうこ酒

六十八番　野分

左　二沼風芦

奥の間も人と成して此野分

右　勝　江網風鶴

塀矢ゝ此野分此風に楯もなし

野分にて風の射る矢に楯もなし

六十九番　茸

左　勝　花園雪駅

木まりのうにたてもたゝ雪の礼

右　中ち風蕉

針茸やこまもぬふてふ苔衣

もてなせ此中まで送る松雪の

七十番　柘榴

左　持　菊田柴園

矢ぬるゝ人りの苔ら耳ばくろ

右　小川柳橋

酢かりのるゝいろ粒もや柿もよ

くへさくの浮きし碓きしすき 蛭

七十一番　榧實

左　勝　狐塚風雲

むなしね都のけしやよ聖かや

右　松岡風竹軒

左山あれしの木末やよや乃いろ

よき人乃むへもいひそのよれしや

七十二番　梅嫁

左　持　淡月河雲菊

雛はほのむと根をしや梅のもと

右　鳴河雲菊

むなしは今とまち迄ち梅のとよ

梅のとよいつまでもとゝ人なもしし

七十三番　杖案

左　持　二沼風平

青くひかゝみよりのしん宮まほり

右　白綱風鶴

なまくてみしや白川まほり宮

おれしなれ上六白川よ宮案

七十四番　紅葉

左　花園雪驛

彩久やりみちよいくへかさしほ山

右　勝　中寺風蕉

もりんちゝや紅井みちゝみ梅乃酒

[illegible]

七十五番　暮秋

左　勝　菊田定則

[illegible]

右　小川桃橋

[illegible]

七十六番　冬更衣

左　持　瓶塚風雲

綿入やもしらうを衣かへ

右　松畳風鈴彩

[illegible]

[illegible]

七十七番　小春

左　勝　淺見川定菊

[illegible]

右　鳴河紫蘭

[illegible]

七十八番　神無守

左　持　二沼風芦

[illegible]

右　江綱風鶴

[illegible]

ひとりかたこまや神乃お茶屋数

七十九番　亥子

左　勝　花園宮部

ちきりよれくるんよいくふ鬼の子餅

右　中島風蓮

君代やはくるも君しゐの子餅

けなすきさにちきりやすん家餅

八十番　十秋は夏

左　持　菊田堂閑

心りもやすも月かん十秋に

右　小川柳橋

中夜やや祥ぬ月見すき冬伴

孫院そのせ心を君し十秋に

八十一番　日蓮忌

左　勝　狐塚風宗

偽を書て祈るひよりう日蓮忌

右　松岡風祈彩

影見ぬ文字も波しりやは彩誦

片意地よ何ぞくひよりう日蓮忌

八十二番　寒車

左　勝　湯見河岸菊

大津るれ追うしいよ麒麟草

右　鳴河笠蘭

冬枯ていつ迄うめへかくう蓼

疲うまでも雪馬や追付ぬ事ん
草

八十三番　大根川

左　二沼風芦

川畑や土より出て土大根

右　勝　江網風鴎

壱乃もの此根さしや川大根

壱とあはまとふなりひ川大根

八十四番　紙子

左　勝　花園君驢

けりの力ありんかなりハ紙子ハ

右　中寺風蕉

風をよき面をいとへるかみこそ

世よ宮はあらん限を紙子ハ

八十五番　金衣

左　菊田宗閑

夜紙宮こそ孫覚てさるや紙ふすま

右　勝　小川桃楊

浜漆やまたら小忠次は紙衣

衣土にへまたら小金衣紙ふすま

八十六番　炭

左　拆　狐塚風忌

枝炭乃むこるやむれひらくる日

右　松墨風鶴軒

なれてや光をはまる炭から

二炭乃[illegible]

八十七番　火焼

左　湊人川窓菊

[illegible]

右　勝　鳴河紫蕭

障子越や[illegible]障子玉火燵

[illegible]

八十八番　水鳥

左　勝　二沼風芦

水鳥や炭乃[illegible]

右　江網風鴿

[illegible]

水鳥[illegible]

八十九番　氷

左　花園雪駅

水[illegible]

右　勝　中寺風蕉

いてはくや[illegible]硯石

硯水に心をくらく[illegible]

九十番　霰

左　勝　菊田窓園

[illegible]

右　小川柳橋

[illegible]

茶酒乃ゑへよ[illegible]竜釜

九十一番　雪

左　勝　楓懐風宗

[illegible]

右　松景風於[illegible]

雪[illegible]

[illegible]

九十二番　短数寄

左　持　[illegible]

朝[illegible]

右　鳴河紫簫

雪[illegible]

[illegible]

九十三番　鐘

左　二[illegible]風[illegible]

[illegible]

右　江洞風[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十四番　初鰹

左　[illegible]

初[illegible]

右　勝　[illegible]風[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十五番　寒化酒

左　勝　菊田宗[illegible]

白酒や[illegible]

右　小川柳橋

酒[illegible]

酒[illegible]

九十六番　神楽

左　疏塚風宗

[illegible]

右　勝　松[illegible]風於[illegible]

玉垣や松[illegible]

[illegible]

九十七番　衣配

左　勝　[illegible]

折[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十八番　煤拂

左　勝　二[illegible]風[illegible]

[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十九番　良分

左　花園雪駅

老ぬ其ぬ形しまゝ不良分空

右　橘　本も風蕉

老そうおかゝへまゝ次良分空

かゝ其ぬ九十九めてさし良分空

百番　家言

左　扮　菊田柴園

大津馬や一所ぬいつくとし此言

右　小川柳橋

[illegible]

[illegible]